



Conservation Alliance Japan

一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン

Conservation Alliance Japan 2020 Annual Report

表紙: 19年度後期助成先「檜枝岐村」の
会津駒ヶ岳山頂湿原本道整備事業

What's CAJ

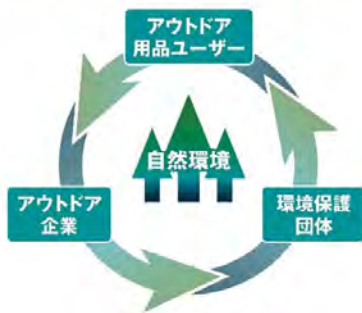
わたしたちは、 アウトドアビジネスで得た利益の一部を 自然保護のために還元します

コンサベーション・アライアンス・ジャパン(CAJ)は、自然保護のために活動している日本の環境団体に、活動資金の援助を行なうことを目的に、アウトドア関連企業が集まって2000年7月に設立した基金団体です。

各社の売上規模によって決定した年会費を基金(アウトドア環境保護基金)として集め、アウトドアフィールド中心とした自然環境保護活動に対し、資金提供をしています。

コンサベーション・アライアンス・ジャパンの参加企業は、すべてアウトドア関連企業です。私たちがアウトドアビジネスで得た利益の一部を、自然環境保護のための活動資金として助成、支援することは、間接的にユーザーが自然保護のために資金提供することにつながります。

自然環境保全のポジティブ・スパイラル



【MISSION】

CAJは日本の価値あるアウトドア・フィールドの保全を目的とする、緊急的かつ有効な保全活動を行っている環境保全グループを支援します。

多くの人がアウトドアレクリエーションを楽しみ、固有の野生動物を育ててきた多様性に満ちた日本の豊かな山や森、川や海を次世代へと継承するために、草の根的に活動する団体を支援していくことはアウトドア企業としての責務だと認識しています。

【VALUE】

Catalyst(触媒として)

アウトドア産業のベースとなる自然環境の保護や保全に取り組む非営利団体とアウトドアビジネスを結び付け、ブランド、サプライヤー、リテーラー、キャンプ場、メディアを問わず、アウトドア産業界全体で協働する機運を高め、積極的な関与を促します。

Collective Impact(集合的な影響力)

CAJの強みは、切磋琢磨している競合ビジネス同志が、健全な自然環境を持続させるという共通目標のもと、メンバーが一丸となって団結協働することで、社会的にも大きな影響力を及ぼすことができます。

Give Back(還元)

CAJのメンバー企業は、ユーザーが次世代にもわたってアウトドアを楽しめるように、ユーザーから得た売上の一部をフィールドの保護や保全活動に取り組む非営利団体に還元します。

Field Work (現場活動主義)

CAJの支援は、特定の土地や水域など、実際のフィールドに即した直接的な活動をしている非営利の自然保護プロジェクトにフォーカスしています。

What's CAJ

■設立経緯

1989年、アメリカにおいて、アウトドア業界の各社が、ビジネスで得た利益の一部を自然環境保護のために還元する目的で、The Conservation Allianceという団体を設立しました。現在、アメリカの参加メンバーは230社を超え、自然保護のために大きな成果を上げています。それをきっかけに日本でも有志が集まり、2年半の準備期間を経て2000年7月、任意団体としてコンサベーション・アライアンス・ジャパンが設立されました。約20年の活動を積み重ね、今後更にインパクトある環境貢献の創出為に、2019年6月に一般社団法人化したしました。

■2025年ビジョン

<Catalyst>

アウトドア業界のサステナビリティに関するハブになっている

<Collective Impact>

主要アウトドア関連企業の過半を含む100社が加盟するCAJは、日本のアウトドア・フィールドの持続的な保全と利用に取り組む団体にとって重要かつ安定的な資金源となるとともに、ユーザーもCAJ加盟企業の製品・サービスを優先的に選択するようになっている

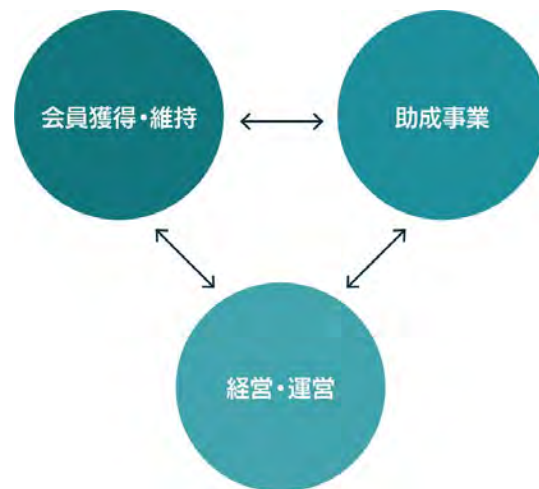
<Give Back>

アウトドア業界全体に自然保護に対する倫理観が確立され、年間2500万円規模の助成が行われている

<Field Work>

効果的なプロジェクトの支援を通じて複数のアウトドア・フィールドの保護・修復が実現している

■運営方針:3領域のポジティブ・スパイラル



<会員獲得・維持>

助成成果の創出と広報を通じてCAJの認知を高めることに加え、各種勉強会、会員企業社員参加型のイベント等の開催を通じて、会員が継続するベネフィットを創出する

<助成事業>

会員増加により拡大する基金を価値ある自然環境の保全に取り組む、実現可能性のあるプロジェクトを中心に助成することで成果を創出する

<経営・運営>

一般社団法人化と共に運営・事務局体制を強化し、透明性のある事業運営を維持しつつ、成果を出すための柔軟な業務執行を行う

Activity

野外にでるときに 5つのガイドライン

新型コロナウイルス感染予防のため
自粛生活が続いている4月に、
CAJとしてアウトドア活動をする際
のガイドラインを提唱した。



OCAC-アウトドア気候変動アクション ・コレクティブを立ち上げ・発表



12月、アウトドア業界から気候変動に
対する科学的な裏付けのある情報提
供などを行ない、正しい知識とフィー
ルドの現状への理解を深め、具体的
な取り組みや行動を呼びかけるアクシ
ョンを目的に立ち上げた。



心身の健康と安全を最
優先に、人々が自然と
適切に繋がけられる
ための行動ガイドライン
を野外活動やアウトドア
スポーツを推進する10
団体で6月と冬季バージ
ョンをそれぞれ提唱した。



10団体共同提案「#ステイコネクテッド」〜
自然と適切につながるための6つのヒント〜



日本最大級アウトドア業界
カンファレンスOutdoor
Innovation Summit2020に
実行委員会として参加。今
年は気候変動アクションコ
ンテンツを設け小泉環境大
臣からの紹介をいただき、
OCACを発表した。

アウトドア・イノベーション・サミット
「OIS2020」

Activity

キックオフ会・OCAC勉強会



新規入会メンバーともなかなか会えない状況が続いているため、オンラインで顔合わせを兼ねキックオフ会を開催し交流を図る。OCACについての知識も深める勉強会を行った。

他団体との連携



Fridays for futureとの意見交換

グローバル気候マーチなど若者を中心に気候変動対策に積極的な活動をしている運営チームと連携できる可能性を話し合った。

助成審査会



コロナ禍の影響もあり後期のみ助成活動とした。過去最多となる38件の申請を受け付け、オンラインでも全企業の意見を反映した審査を行うことができた。今回はより重要度の高い案件に重点を置き決定した。

環境省との連携



官民連携プラットフォームに登録。環境省の自然公園法について、パブリックコメントの提出を考案。

地方創生SDGs
官民連携
プラットフォーム



Grants



【一般社団法人 大雪山・山守隊】～「たまには山に恩返し」活動～産・学・官・民で行う生態系の復元を目指した山岳管理～

大雪山国立公園の荒廃登山道の補修を主に整備イベントや環境教育を行い、協働型管理運営体制を目指す。

【「山たの」クラブ(公社)東京都山岳連盟加盟団体】～宝沢プロジェクト～

多くのトレイルランナーが集う山域の、野生動物との接触事故を防ぐ東京郊外の山のトレイル環境整備やトレイルランナーのマナー啓発。また新たな森林活用モデルの確立を目指す。

【緑のダム北相模】～相模湖・若者の森づくりプロジェクト～

地元の中高生が協働する、森を活用した教育プログラムとしての森林整備活動

【つくばトレイルガーディアンズ】～Mt.tsukuba 3Sプロジェクト～

筑波山における3S実現のための、参加型・環境保全型トレイルサイン整備プロジェクト。



【南アルプスマウンテンバイク愛好会】～中尾山外一字恩賜県有財産保護財産区植樹用地巡視活動～

地域貢献と山林保護を実現しながら行う、持続可能なマウンテンバイクが走行できるトレイルづくり。

【YLTクラブ】

蔵王国定公園エリアから山形県にかけルートMAP作成やマーカーの制作設置を行いロングトレイルルートの全線開通を目指す。

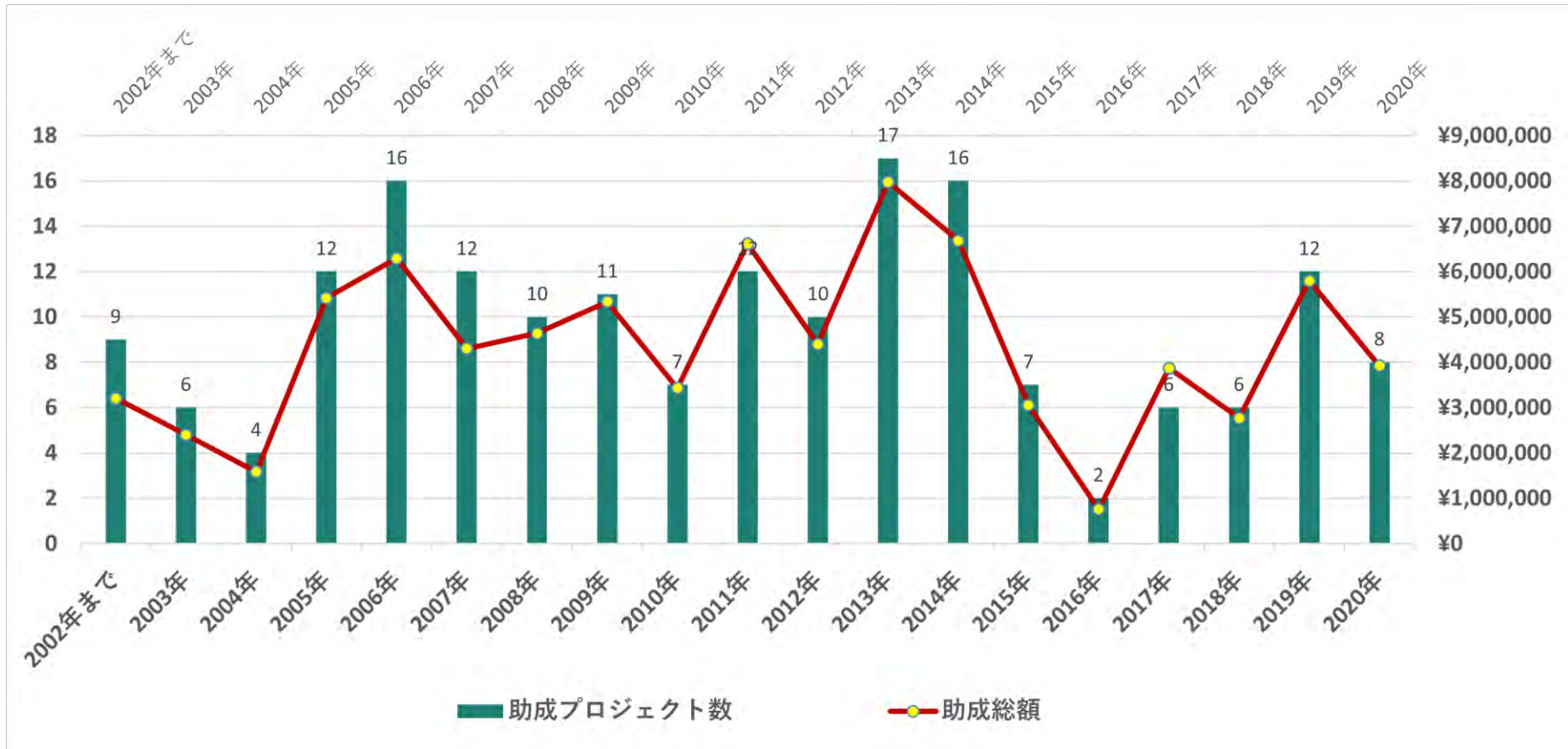
【富士山西麓観光資源”輝き”協議会】

富士山や南アルプスの眺望を誇る本栖湖・中之倉峠を中心とした複数のトレッキングルートを持つ富士山西麓本栖湖周辺の持続可能な利用と保全のためのトレイル管理と環境整備活動を行う。

【OWS】～干潟保全プロジェクト-ゆかし潟干潟保全活動-～

希少干潟である和歌山県のゆかし潟における生態系の調査を行い価値を示すことで保全の道筋を示す。

Grants Achievements



Public Relations



OGAWA FIELD EXHIBITION



OGAWA ふもとっぱらそとあそび



ビックアウトドア 店舗サイネージ



KEEN FEEL GOOD TV



レジャー&アウトドアジャパン

その他ランドウエル展示会等

Public Relations

[illegible]

26 THU	レジャー施設に関する感染症対策の現状    
	E-6 14:30~15:00 第一部：コロナ禍における、2020年キャンプ場最新動向 第二部：日本のアウトドア業界の動きについて  
	田中 聖也氏 (株) スペースキー アウトドアプラットフォーム 本部 本部長 西村 昌樹氏 (株) スペースキー アウトドアインベーションセンター センター長
	E-7 15:20~15:40 遊戯施設安全運用のための加速度と 離隔距離についての考え方 
	奥本 義孝氏 日本大学理工学部 学部長 教授
E-8 12:30~14:00 今、オートキャンプが注目される理由 	
新 達明氏 (一社) 日本オートキャンプ協会 事務局員	
E-9 14:30~16:00 アウトドアビジネスと自然環境保護 ～CAJが果たす役割と責任～ 	
三浦 悠太氏 コンパレバシオン・テラプラス・ジャパン 代表取締役	
「レジャー&アウトドアジャパン2020」のセミナーは全て無料でご観覧いただけます。 レジャー&アウトドアジャパン2020の開催概要はこちらをご覧ください。>>> http://www.leisure-japan.com/2020	

[illegible]

Public Relations

メディアパートナーでの掲載



織研新聞

sotoshiru

ログイン 会員登録

記事を読む アイテムを探す 写真を見る 相談を見る

緊急事態宣言発令！？アウトドアってどうなの？CAJから5つのガイドラインが提唱されました。



4月7日に7都府県(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、福岡県)に緊急事態宣言が発令され、そして17日には日本全国へと拡大されることとなりました。この宣言を受け、ゴールデンウィークに予定していたキャンプを控へておく方も多いと思います。そんな中、アウトドアの自然環境保護のために活動している一般社団法人コンサベーション・アライアンス・ジャパン(以下CAJ)から『バンデミックの今、アウトドアに出たいと思っている人へ。CAJからのお願いと、5つのガイドライン。』というメッセージが出ています。私たちが今できること、考えてみませんか？

2020.04.25 | CAMPLOG GEAR |

この記事の続きも読む

sotoshiru

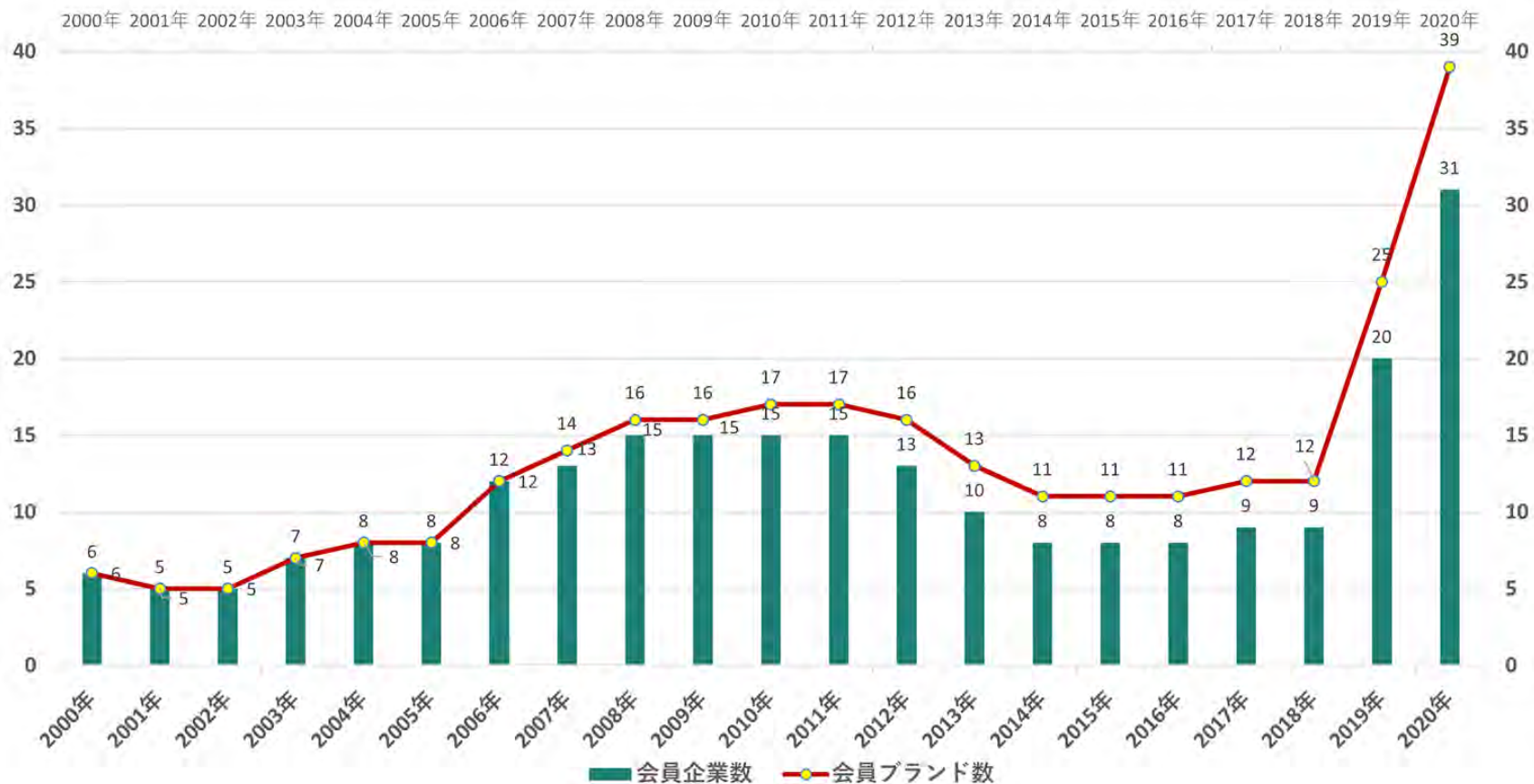
Public Relations

メディアパートナーでの掲載



フィールド・ライフ

Number of Member



New Member

2020年04月入会

icebreaker
Move to natural

SUNSKI

GHEMP

RECAMP

2020年07月入会

SOTOË

YAMAP



TARAS
BOULBA®

2020年10月入会

BUD PALMS



BicOUTDOOR

志摩自然学校



2021年01月入会



2020 Member



patagonia®



AIGLE
DEPUIS 1853



BicOUTDOOR



DR. BRONNER'S
ALL-ONE!



icebreaker
Move to natural



KAMAKURA TENMAKU
鎌倉天幕



Miir®



PICA



RECAMP



志摩自然学校



snow peak
outdoor lifestyle creator since 1958



SOTOASOBI
そとあそび

SOTOË

SUNSKI



THE FARM
AGRIEM PARK CHIBA KATORI

WILD-1
OUTDOOR LIFE STORE



【メディア・パートナー】

A kimama
アウトドアカルチャーのニュースサイト



織研新聞社



一般社団法人コンサベーション・アライアンス・ジャパン
事務局

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-2-13高橋ビル201
株式会社ヨンロクニ内

事務局長：滝沢守生

TEL: 03-3797-0539 / FAX: 03-6419-7015

E-mail: info@outdoorconservation.jp

<https://outdoorconservation.jp/>

Board Member

代表理事：三浦 務
専務理事：若菜 洋
理 事：齋藤 栄樹
理 事：竹田 尚志
理 事：古幡 浩史
理 事：山田 太郎
理 事：与茂 雅之
監 事：篠 健司



Conservation Alliance Japan

一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン